

(様式第1号) (第2条16号関係)

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：一般社団法人 しなの福祉教育総研	所在地：長野県上田市上田180-6
評価実施期間：令和4年10月12日から令和5年2月10日 *契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B2020068・B18051・B2020073・B2020065	

2 福祉サービス事業者情報（令和4年4月現在）

事業所名（施設名）：小諸市立東保育園	種別：保育所
代表者氏名：小諸市長：小泉 俊博 （管理者氏名） 園 長：平川 宏恵	定員：100名（現員86名）
設置主体：小諸市 経営主体：小諸市（教育委員会子ども育成課）	開設（指定）年月日： 昭和43年4月1日
事業所所在地：〒384-0051 長野県小諸市八満70	
電話番号：0267-22-2553	FAX 番号：0267-22-2553
ホームページアドレス：なし	
職員数	常勤職員：20名 業務委託職員：4名
専門職員	（専門職の名称） 園 長 1名 （専門職の名称） 調理員4名
	保育士 12名
	補助保育士6名
	庁務員 1名
施設・設備の概要	（居室数） 保育室：5室 乳児室：1室 ほふく室：1室 事務室：1室 遊戯室：1室 （設備等） トイレ：4箇所 調理室：1箇所 園 庭：雲梯・ジャングルジム・鉄棒 ・複合遊具・はん登棒・砂場・タイヤ

3 理念・基本方針

【小諸市立保育園 保育目標】 ①自分を好きになれる子ども ②やりたいことをやれる子ども ③たくましく豊かな子ども
【東保育園の理念】 子どもの実態や、子どもを取り巻く環境、卒園後の育ちの見通し、保護者の意向、保育者の願いに基づき豊かに伸びていく可能性を秘めた子どもが、現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培うために、保育を進めます。

【東保育園の目標】

- ①夢中になって遊ぶ子ども
- ②心身ともに健康な子ども
- ③友達や物を大切にする子ども

【保育園の方針】

- ・自分で考え、工夫するする力をつける保育
- ・丈夫な心と体をつくる保育
- ・思いやりの心を育てる保育

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

- 東保育園は、浅間山を望む小諸市の東側に位置し、住宅地に囲まれ隣には小学校もあり自然豊かで比較的静かな環境にあります。主要道路は国道18号線があるが、山側には北国街道も通り歴史的にも趣のある地域です。
- 家庭状況は、核家庭が多いが祖父母との交流はあり支え合って生活している家庭が多いです。若い世代の保護者には、丁寧な対応や支援が必要な家庭もあります。
- 園に隣接して小学校があることで、一年生との交流や中庭で遊ぶ卒園児の姿を見ることができ、職員同士自然な交流や連携ができ、園児にとっても憧れや安心感につながりスムーズな移行ができています。
- 地域や企業の方が保育に協力的で、芋ほりを一緒にしたり工場見学に誘ってくださったりして園児も楽しみにしています。
- 異年齢保育については、クラスの子どもの主体の遊び（ねらいに応じた選択制の保育）から発展して自然な交流ができています。また、自ら考え体を使った運動遊びを取り入れ、わらべうたあそびを楽しんだり絵本に親しんだりしています。
- 食育については、委託業者と連携しながら、地域の特色を活かした食体験や畑づくりなどで関心興味を持てるよう進めています。
- 発達の気になる子どもや子育てについて、保健師や心理専門職が保護者や保育士の相談に応じています。また、関係機関と連携を強化し、障がい早期に気付き子育て支援や就学支援に繋がるよう努めています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）

初回

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

○園舎がゆとりのある空間で環境が整えられている。

南向きの園舎で明るく、コの字型に建てられ園庭で遊ぶ園児の姿がどこからも見られ安心でき、大きな柱が園舎を支え遊戯室を中心にそれぞれの遊びから次の遊びへと繋がる起点になっています。また、明るい廊下には、遊びの発展と子どもたちが安心して生活できる工夫がみられます。

園庭の地面は、足腰の発達を考えて地面に砂が敷きつめられています。

○地域との交流・子育て支援が行われている

保育園を取り巻く環境に恵まれ、散歩などで地域の人たちとのやり取りは、子どもたちに社会性や思いやりなどが培われています。（市立図書館との連携・企業の見学・地域の方との

芋ほり) また、未就園児の親子を対象に育児セミナーを実施しており支援につながっています。

○子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、次に活かされている。

園児一人ひとりの保育サービスの実施状況は、小諸市公立保育園の統一した記録様式により、適切に記録されていることが確認できました。また、年間、期ごとに保育実践の反省から次への活動に活かす努力もされています。

○一人一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。

職員(特に保育士)は、一人一人の園児の家庭環境や生活リズム、発達状態を的確に把握し、園児の個人差や特性を共有しながら、個々の園児の状態に応じた適切な保育を目指していることを職員の面談や指導計画等においても確認できました。

今回の訪問調査で、特に支援の必要な子に対しての丁寧な関わりを、実際に見ることができました。利用者調査の中にも「子どもが毎日楽しいと言って保育園に行っています。先生方に感謝」とありました。また、保護者が子どもたちの為にとの思いから保育園に対し協力的な様子が利用者アンケートからも伺えました。また、コロナ禍の影響で学級閉鎖や行事に制限を設けたことへの理解もありました。

◇特に改善が必要と思われる点

○理念、基本方針の明文化と周知をさらに図っていただきたい。

職員や保護者への周知が不十分であることが面談やアンケートで分かりました。保護者総会での説明や園だよりなどで保護者への周知を図り、職員には特に就業形態により作成段階で携わることの少ない職員も含め、保育計画や事業計画を立てる前に周知を図り、理解したうえで立案することが園児や保護者の利益につながるのではないかと思います。さらに地域の方や協力者の方にも知っていただくよう事務室などにも明示されることが望まれます。

○安全面での更なる改善を望みます。

門の開閉を完全にできるような工夫と、登降園の際の駐車場の利用方法の確認を保護者へ周知し、安心して送迎できるように配慮をお願いします。

7 事業評価の結果(詳細)と講評

- ・別紙添付(共通評価項目、内容評価項目)

8 利用者調査の結果

- ・別紙添付(3-1)

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント(別添4)